

## 第三者評価結果

### A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>全体的な計画は園長が作っており、年度の初めにはできあがっています。前年度の評価と反省に、園の特徴や取り巻く環境、地域の特性を考慮して作られています。全体的な計画は、園が大切にしている保育方針を基に作られており、年度の初めにはそれを基に、職員が検討して年間指導計画を作成しています。</p> <p>子どもたちの姿を見ながら、各クラスでは月案、週案を作り、具体的な活動を展開していることから、全体的な計画がしっかり立案されていることが何より大切と考えています。今後は、全体的な計画の作成から職員が関わることで、更なる充実が期待されます。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもたちの成長に合わせて快適に過ごせるよう保育室の環境整備には力を入れて取り組んでいます。職員は子どもの個性を尊重し、成長に合った援助を心掛けており、それぞれの保育室は、生活や遊び、食事と午睡などに分けるなど、レイアウトに工夫を加えています。</p> <p>職員は、子どもが自ら伸びる力を大切にしたいと考えており、年齢に合った環境の中で、沢山遊んで欲しいと考えています。コーナーの設置や玩具の入れ替え、絵本の選定なども、子どもの生活や興味関心に合うようにしています。職員手作りの玩具も備え、各保育室は制作作品や季節の掲示物を飾っています。洗面とトイレは清潔を保つために、職員が当番表を作って清掃に当たっており、子どもたちは年齢が上がると共に扉のあるトイレを使用しています。</p>		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>日々の保育では、園と家庭の両面から子どもの姿を捉えることが大切と考えて、子どもを受容し子どもの状態に応じた保育を行っています。子どもの成育歴や、家庭での様子を把握し、子どもの特性を理解した上で、職員は子どもに合った声掛けをしています。職員は、子ども中心の保育を常に念頭に置いて保育に取り組んでいます。</p> <p>入園直後に無理なく園に馴染めるように、一人ひとりの子どもに合った導入保育を行い、子どもの欲求をしっかりと受け止め、園が安心できる場所であることを穏やかに優しい話しかたで伝えていきます。長時間の保育になるので、子どもが不安を感じないように配慮し、基本的な生活習慣の獲得では子どもの気持ちに寄り添う姿勢を持ち、職員が無意識のうちに大きな声を出したり、否定的な言葉を使った時はお互いに注意できる環境を作っています。</p>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っています。年齢に応じた方法で、基本的な生活習慣の大切さを子どもたちに教えています。絵本を使って説明したり、イラストの掲示で、子どもが戸惑うことなく良い習慣が身に着くようにしています。離乳食は家庭で食べた食材を園でも提供できるようにし、離乳初期から後期、幼児食まで細かく配慮しています。</p> <p>手洗いやうがいも年齢に応じた方法で上手に促しています。排泄自立への取り組みも、連絡帳等で家庭と歩調を合わせ無理なく進めています。いずれも、子どもの発達状況や個人差に配慮し、褒めながら自分でやろうとする気持ちを大切にしています。その日の活動に基づいた細かい配慮のもと子どもたちは休息をとっており、午睡は子ども一人ひとりの生活リズムや年齢、活動内容によって柔軟に対応しています。</p>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を行っています。様々な体験から、子どもたちが生きる力を身につけて欲しいと考え、指導計画に位置付けて取り組んでいます。子どもの興味や関心、欲求を見極め、見通しを立てて保育に臨んでいます。バランスの取れた計画では、様々な年齢の子どもとの交流や、自然に触れて思い切り遊ぶ活動を盛り込み、行事では自信をもって発表して拍手を貰う誇らしい体験など、楽しい園生活になるよう職員が協力し合って取り組んでいます。</p> <p>園は積極的に戸外に出て体を動かすことを目標に、園庭では砂場や遊具で遊び、夏はプール遊び、天気の良い日は毎日散歩に出かけています。散歩先では豊かな自然に触れ、季節感を感じ、落ち葉や木の実を集め、昆虫にも出会い、自然を大切にする心を学んでいます。安全に配慮したルール等は職員が手本を見せ、道の歩き方や信号や横断歩道を渡ることも覚えていきます。幼児は英語遊びが大好きで、外国人の先生と表現する面白さや楽しさを体験しています。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しています。0歳児室は、ほこりの立たない床暖房の設備があり、職員がたっぷりのスキンシップで信頼関係を築いています。職員手作りのパーティーションで仕切り、ハイハイやつかまり立ち、ヨチヨチ歩きの子どもの安全にも十分配慮しています。0歳児室は、可愛いイラストの掲示物や、カフェカーテン、ウォールポケットや、温かみのある壁面装飾で飾っています。マラカスやぬいぐるみ、音の出る玩具や触って気持ちのいい物、色彩豊かな物、動く物や音の出る物を用意し、五感を刺激して感性を養っています。</p> <p>子どもの発達段階に応じた環境設定については、複数担任の職員がクラス会議で検討しており、月齢によって生活リズムが大きく違う0歳児が、安心して過ごせる環境づくりが何より大切であるとの共通認識をもっています。</p>		

【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>環境と保育の内容や方法に配慮しています。子どもたちは年齢ごとの保育室で過ごす時間が多く、それぞれ担任が立てたバランスの良い月案、週案を微調整しながら日々の保育が展開されています。職員は子どもたちが心身ともにのびのびと表現活動ができるように配慮し、子どもが集中して何かに取り組んでいるときは静かに見守り、時に静かに声をかけ、遊びが発展するようにしています。</p> <p>複数担任や担任同士が協力し合って保育に取り組んでいます。クレヨン、色紙、粘土、型はめ、パズルや、アイデア満載の職員手作りのカードなど、たくさんの素材を用意しています。保育室にシャングリズムや滑り台を組み立てたり、よーいドンで走って活動的に過ごしたり、誘い合って遊ぶごっこ遊びをしています。</p> <p>大好きな絵本も手に届くところに置き、職員が読み聞かせのリクエストに答えています。子どもがしたいことをしたいだけできるように環境を整えています。</p>		
【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>3歳以上児への適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しています。ピアノのリズムに合わせて全身で表現したり、英語遊びで楽しんだり、子どもたちは豊かな感性を身に付けています。乳児の頃から天気の良い日は積極的に戸外に出て体を動かす活動が多い環境なので、体力もつき、散歩先の公園では好みの公園遊具でおもいきり遊ぶ姿が見られます。</p> <p>職員は安全に配慮し、ルールを守って遊べるように、手本を見せています。公園で集めた落ち葉や木の実を持ち帰り制作に使ったり、図鑑で調べたりしています。集団に入れない子どもには無理強いないせいで、職員が子どもの性格を考えて、上手に誘っています。</p> <p>4歳児、5歳児になると、リズム遊びや歌、合奏も、きれいな声で歌いきれいな音に触れると気持ちがいいと感じ取れるようになっていきます。絵具や、空き箱工作も独創的になり、皆で協力して大きな作品を作っています。近隣の地域ケアプラザのクリスマスの催事に年長児が制作したキャンドルを飾って楽しみました。</p>		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しています。昨年度3回、今年度2回、本社の発達支援巡回として、臨床心理士が園を訪問し、経過の共有と配慮についてのアドバイスを受けています。</p> <p>専門機関との連携は、適切な支援の継続に役立っています。様々なアドバイスや配慮事項は個人別の指導計画に盛り込んで、保育に活かしています。個別の保育日誌も記入し、職員が情報を共有することで、支援にばらつきが生じて子どもに混乱が起きないようにしています。</p> <p>保護者の相談にも応じており、発達面で気にかかることがある子どもには、時間をかけて見守り丁寧に記録を取るようにしています。</p>		

【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しています。朝8時半から18時半までの保育に加え、7時半から8時半の朝の時間帯と、20時半までの延長利用が可能となっています。子どもは長時間保育園で過ごしていますので、園は子どもの心身の負担を軽減したいと考え環境を整え、きめ細かい配慮をしています。</p> <p>延長保育の時間帯は、人数によって段階的に合同保育となり、年齢の違う子どもたちが集まって過ごしています。その際は、異年齢の子どもたちの発達の違いによる危険がないように配慮しています。</p> <p>週案を基に、その日の子どもの状態に考慮しながら、主体性を持たせた活動を主に、職員同士が連携し、申し送りも口頭だけでなく連絡ノートを活用し、連絡漏れがないようにしています。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>小学校との連携、就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮しています。近隣の小学校の教員が年1回保育実習のために来園し、保育園と小学校の取り組みについて共有し、情報交換しています。(今年はコロナ感染症予防のため中止でした。)その内容は保護者にも知らせ、取り組みについて理解を求めています。</p> <p>5歳児の保護者会では、就学に向けた取り組みを説明しています。当園の5歳児については、指導計画のもと、グループ活動などで自分で考え行動できるようになっており、変化のある園生活から意欲が育つような働きかけで、就学に向けて期待を持って過ごせるようにしています。</p> <p>子どもたちそれぞれが入学する予定の小学校に、保育所児童保育要録を作成し、郵送しています。保育所児童保育要録は日頃の保育の関わっている担任が記入し、園長が確認して完成させています。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保健計画が策定されていますが、法人本部作成で園独自の物ではありません。保健計画に沿って園独自の保健マニュアルがあり、それに沿って子どもの健康状態を把握しています。</p> <p>入園時の面談や年2回の保護者会、送迎時の会話などから家での子どもの健康状態を聞いています。登園時には検温し、登降園時間と共に「健康観察記録」に記入しています。「健康観察記録」には朝夕の伝言も記入しており「日中咳が出ます」「鼻水あります」などが記入され職員が確認の印を押しています。子どもの健康に関する情報を児童票に集約し、成育歴や既往症、予防接種記録、主治医名などが一目で判るようにしています。</p> <p>子どものケガや急病の際は保護者に連絡し、同時に応急処置をすると共に救急車の手段を講じたり、嘱託医と相談するなどして、速やかに判断して医療に繋げる体制ができています。乳幼児突然死症候群についても入園時に保護者に説明し保健だよりにも掲載しています。</p>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>健康診断・歯科検診の結果を保育に反映しています。0歳児は月1回、全園児について年2回健康診断を行い、その内容を保護者に知らせています。健康診断の結果再診が必要となった場合等では、書面だけでなく直接口頭で保護者に話しています。今年、ウェブ版連絡帳で、健康診断結果を個別配信しました。年2回の歯科検診と歯磨き指導も実施しています。</p>		

【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>アレルギー疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っています。食物アレルギーの有無や種類は入園児の面接で確認し把握しています。法人はアレルギーガイドラインと対応マニュアルを完備しており、キャリアアップ研修や本社の研修テーマに取り上げ職員が知識や適切な対応を学ぶ機会を作っています。</p> <p>園独自の対応マニュアルもあり、間違いが起きてはいけない事項として職員会議の議題にして共有しています。食物アレルギーのある子どもの場合は、保護者からの申し出により、医師の診断書と除去指示書を提出してもらい対応食を用意しています。毎月栄養士と園長、担任は除去食品をチェックし、給食室では調理方法等を、保育室では配膳に間違いがないか確認しています。</p> <p>保育室では、席やトレイを別にして誤配膳、誤食を防いでおり、年齢に応じて他の子どもにも対応を説明しています。日光など、食物以外のアレルギーや子どもの慢性疾患についても申し出によって保護者と相談のもと十分な配慮をしています。</p>		
A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>各クラスの年間指導計画と月間指導計画に食育の欄を設け、子どもたちが食に関する豊かな体験ができるように取り組んでいます。子どもの成長に合った椅子とテーブルで、椀や皿、スプーンや箸も年齢に合わせて使用しています。お代わりの用意もあり、毎食にデザートがついています。</p> <p>今年の夏以降、栄養士と園長が食育への取り組みを開始しました。食育では、幼児クラスでは配膳や献立読み上げ、当番活動、調理器具を使う、収穫した芋を給食で食するなど、食事に対して積極的な気持ちになるように働きかけ、0、1、2歳児では旬の食材に触れ、重さを実感し匂いをかいで、食の楽しさを感じることができるようになりたいと考えています。今後の計画的な取り組みが期待されます。</p>		
【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>旬の食材を使用した献立は、子どもたちの嗜好に合ったバランスの良いものになっています。季節の新鮮な食材を使い、適温配食にも努めています。魚や肉をおいしく調理し、野菜も多く摂取してほしいと考え、調理方法に栄養士が工夫を加えています。検食簿の記述を参考に、給食会議、離乳食会議を通して、保育と栄養士等給食担当者の連携が可能となっています。会議では、味付けや大きさ、カットの仕方などの細かい部分も話し合っています。</p> <p>行事食もあり、日本の伝統行事の由来を職員が話して聞かせた後に皆で給食を食べることもあります。栄養士は保育室を回り喫食状況を確認することもあります。今後は食育が本格化されることもあり、赤・黄・緑の食材と健康の話など、栄養士が直接子どもと話し合う計画があります。今後は期待できます。</p>		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
【A17】	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っています。ウェブ連絡帳を活用し、日常の活動を保護者に速やかに知らせています。保護者は降園時の迎えに来る際に、子どもの今日の活動や連絡事項を確認するようにしています。災害発生時や緊急時の子どもの安全を保護者に速やかに連絡する体制も整えています。</p> <p>保護者代表を含む運営委員会を開催し、園での保育の取り組み等を話して理解を求めています。運営委員会は保護者の意見を集める場ともなっており、園は保護者の意見・要望・提案を歓迎しています。</p> <p>保護者参加の行事は、開催日を土曜にするなど、保護者の参加しやすい日に実施するようにし、年間計画を年度の初めに前もって渡して、準備をお願いしています。保護者の行事後アンケートの集計結果を、次回の企画に活かしています。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者が安心して子育てができるように、保護者の勤務事情等による延長保育では柔軟な対応をしています。急な残業や交通機関の乱れによるお迎えの遅れにも、連絡を貰い対応しています。負担の軽減にも力を入れ、持参する持ち物を減らしたり、通院による登園、降園の時間変更にも、個別の申し出により対応しています。園長はじめ職員は、保護者と子どもの家庭での姿を把握し、背景を考えながら個別の配慮をしています。保護者からの相談も気軽に受けています。</p> <p>相談記録については、園長が手帳に記録し、メモを作って周知し、申し送りノートに記載して職員が共有しています。苦情の場合は所定用紙で保護者対応のファイルに綴じ、一部は経過記録に取って児童票に綴じています。これらの記録が統一されていないので、どのような記録がその後の運営に活きるかを考え、整える必要があると思われます。</p>		
【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>現在、虐待等権利侵害の案件はありませんので、経験の浅い職員に虐待等の内容を理解するよう配慮しています。園長が次年度の研修計画の作成等でマニュアルに基づく職員研修の実施について検討しています。法人本部で実施した研修参加の職員が、学んできた知識や情報で、対応等を共有しています。虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などの理解について、職員への研修が課題となっています。</p> <p>虐待等の発見時の対応については、フォロー図で表したマニュアルがあります。園長はじめ職員は、気づきをお互いに確認しようと申し合わせており、法人本部の担当者に相談する体制もあります。職員はクラス懇談会や送迎時の保護者との会話を大切に受け止め、密接な関係から、困ったらずぐに相談もらえるようにしたいと考えています。</p>		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>経験や職層に応じた法人本部のキャリアアップ研修があり、行政や関連団体の研修にも職員が参加しています。職員が自身の目標に沿って自己評価する機会を設けており、園長が面談をしています。</p> <p>園長が各保育室の保育を把握するとともに、延長保育では保育実務に入ることも多く、職員が子どもと一緒にいる姿や共感する姿勢を把握しています。職員はそれぞれが担当する係活動に参加し、積極的に取り組む中で、人間関係を築く様子についても把握しています。そのうえで、個人面談では様々なアドバイスをしております。保育士としての専門性の向上と共に、共に学ぶ姿勢を育て、風通しの良い職場づくりに向けて継続して行きたいと考えていますが、現在は道半ばといったところです。職員会議やクラス会議等で職員に伝え、今後も力を入れて取り組んでいきたいと思っています。</p>		